

**ヤマハ株式会社**  
**2018年3月期**  
**第2四半期決算説明会**

2017年 11月 2日



## 決算概要

- 前年同期比では、売上高は為替影響+80億円もあり106億円の増収。  
営業利益は、為替影響▲13億円等もあり、前年同期より▲7億円の減益。
  - ◆ 楽器事業は、増収減益。先進国市場で及ばず、中国市場は二桁成長継続、その他地域も回復基調。営業利益は為替影響、一時的要因等も重なり減益。
  - ◆ 音響機器事業は、増収増益。AV機器、ICT機器は堅調、PA機器は新興国・中国市場で好調に推移。
  - ◆ その他の事業は、電子部品、FA機器が堅調に推移し、増収増益。
- 前回予想比では、売上高は、楽器事業が想定を下回り▲12億円の減収。  
営業利益は、楽器事業の減収、モデルミックス等により▲26億円の減益。
- 純利益は、前年同期に繰延税金資産136億円の計上の影響もあり  
前年同期比では減益。

# 2018/3期 上期業績概要



(億円)

	17/3	18/3	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	1,992	2,098	+5.3%	2,110	▲0.6%
営業利益 (営業利益率)	246 (12.4%)	239 (11.4%)	▲2.9%	265 (12.6%)	▲9.7%
経常利益 (経常利益率)	245 (12.3%)	247 (11.8%)	+1.0%	265 (12.6%)	▲6.7%
当期利益※ (当期利益率)	272 (13.7%)	196 (9.4%)	▲27.8%	215 (10.2%)	▲8.7%

## 為替レート (円)

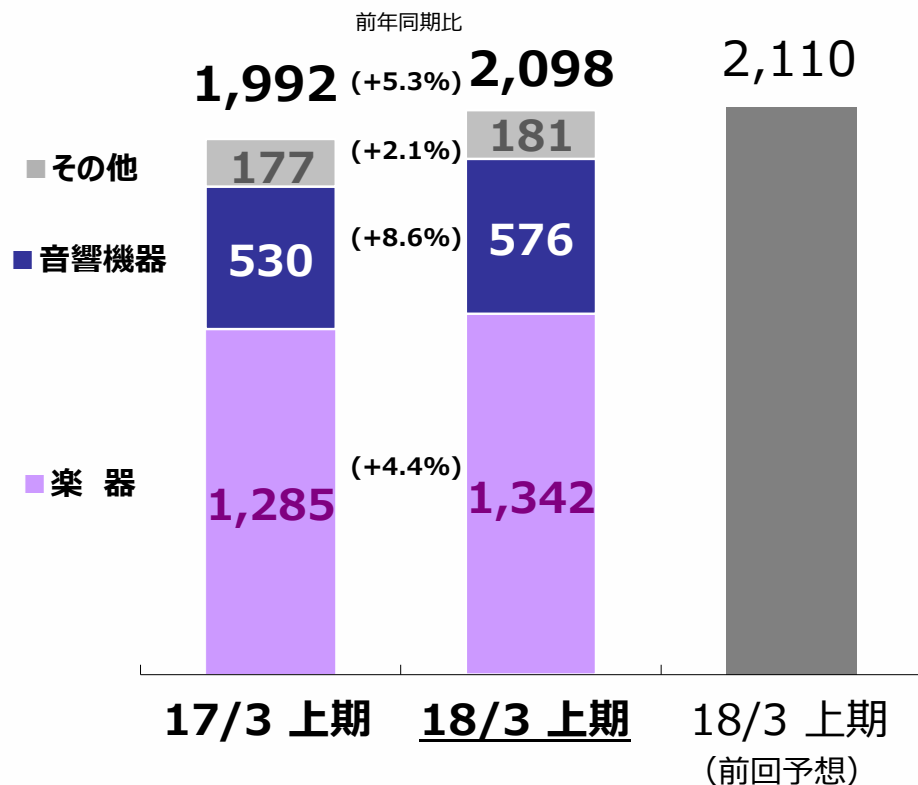
売上高 (期中平均)	US\$	105	111	111
	EUR	118	126	124
利益 (決済レート)	US\$	107	111	111
	EUR	123	122	122

※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」

●前回予想は2017/8/1 発表

# 2018/3期 上期事業別業績

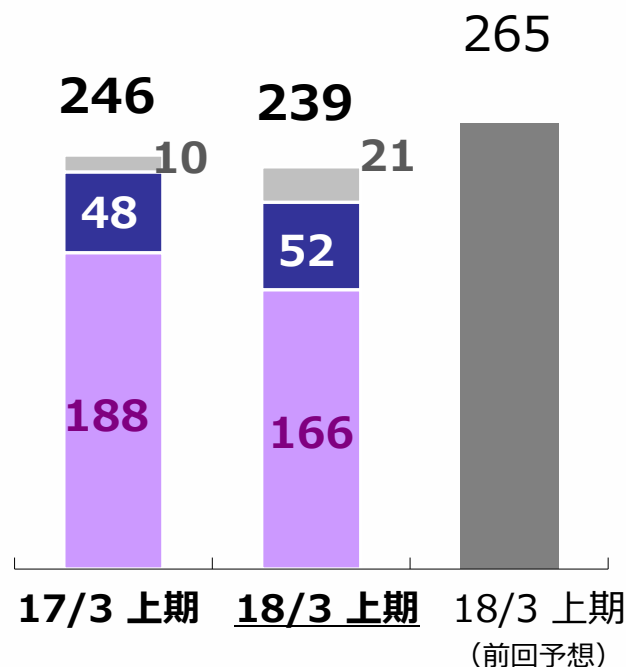
## 売上高



為替影響額 (億円)		
前期比較	+80	楽器 +52 音響機器 +27 その他 +1
前回予想比較	+22	楽器 +14 音響機器 +8

## 営業利益

(億円)

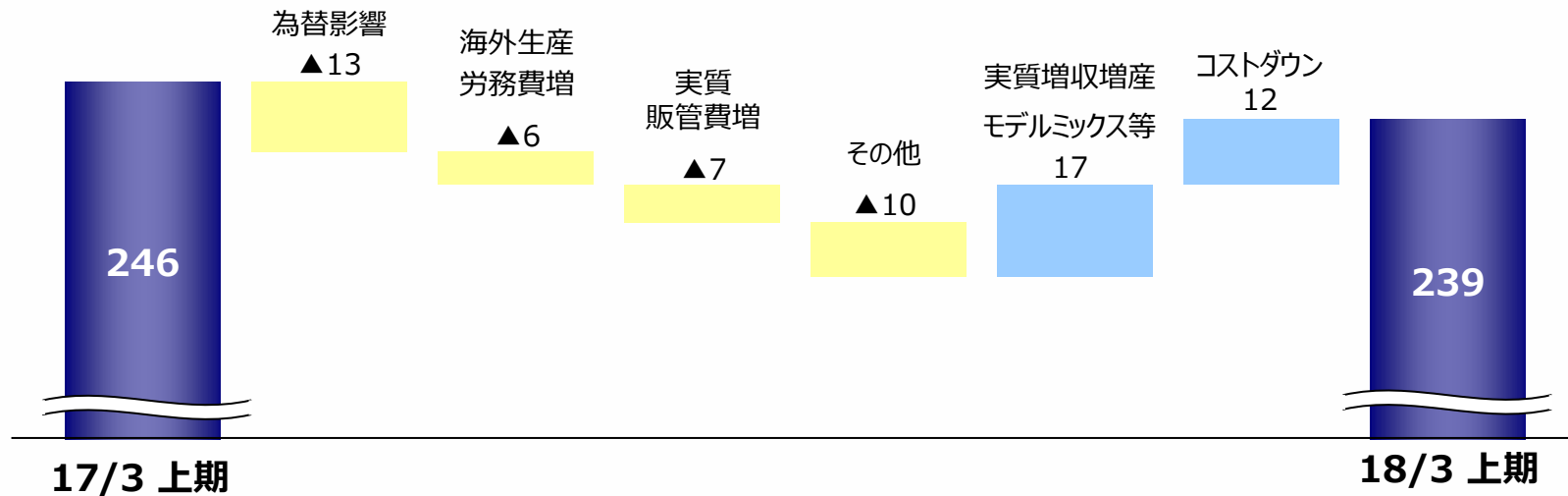


為替影響額 (億円)		
前期比較	▲13	楽器 ▲11 音響機器 ▲2
前回予想比較	▲2	楽器 ▲2

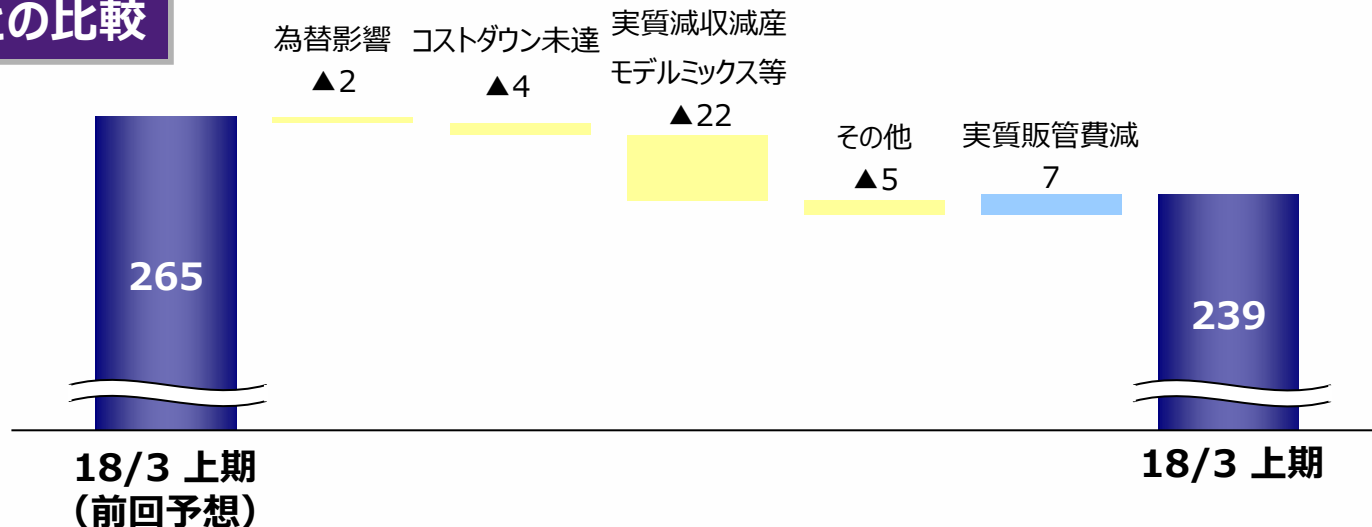
# 2018/3期 上期営業利益増減要因

## 前期との比較

(億円)

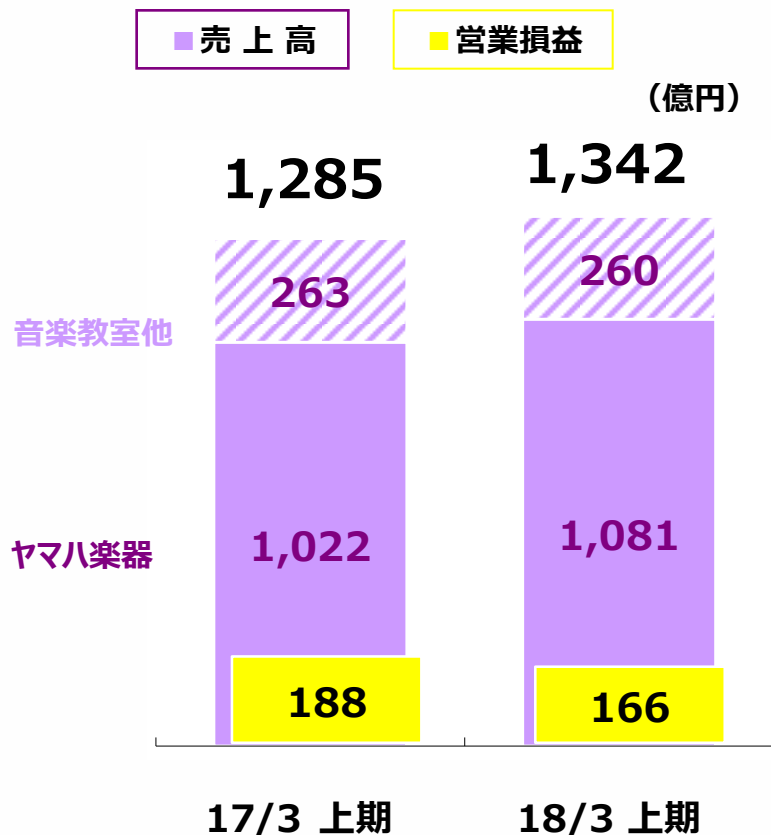


## 前回予想との比較



● 前回予想は2017/8/1 発表

## 上期



## 上期の状況

- ・前年同期比で増収減益。
- ・商品別には、ピアノ、電子ピアノ、ギターが堅調に推移。
- ・電子ピアノ新モデルがすべての地域で出揃い、中国・新興国を中心に好調に推移。
- ・北米は、大手ディーラーの流通在庫削減により、市場でのセルアウト順調に進むもセルインに影響出る。
- ・欧州は、取引条件の見直し、主要モデル端境期のタイミングがセルインに影響し、一時的に苦戦。
- ・中国は、1Qからの好調が継続し、殆どのカテゴリーで対前年同期二桁成長。
- ・その他の地域は、電子ピアノ新モデルの本格導入やギターが牽引し、堅調な推移。
- ・営業利益は、欧米市場での減収、モデルミックス、一時的要因等も重なり減益。

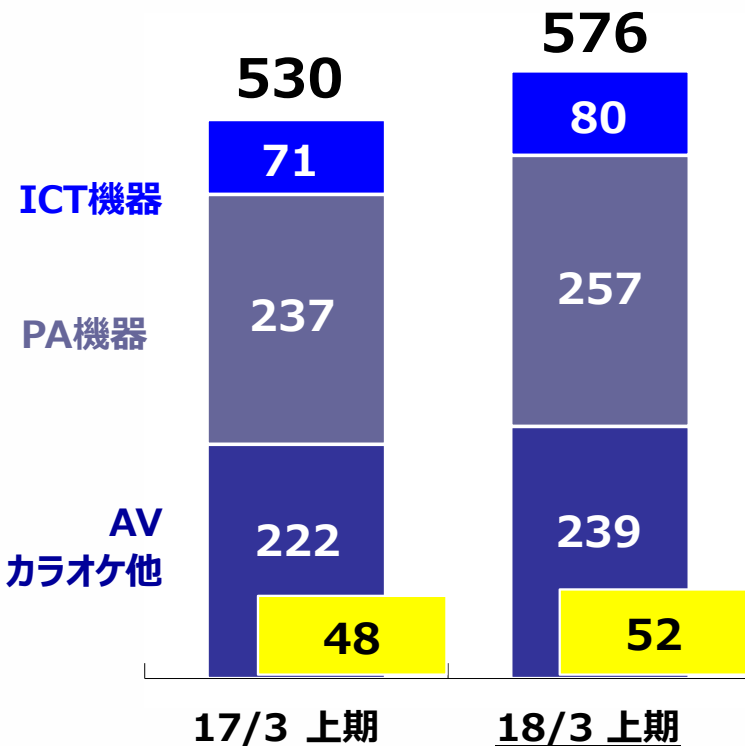
# 音響機器事業 上期の状況

上期

■ ■ ■  
売上高

■ 営業損益

(億円)

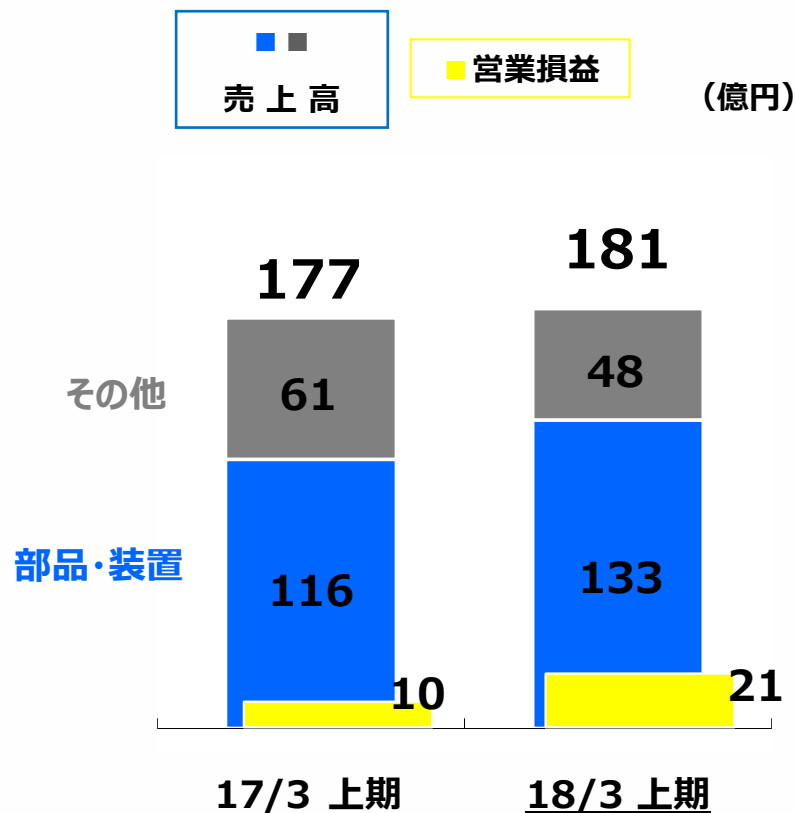


## 上期の状況

- ・前年同期比で増収増益。
- ・AV機器は、商品別ではサウンドバー、ネットワーク・オーディオが好調に推移。市場別でも殆どの地域で前年を上回り 堅調。
- ・PA機器は、新興国・中国市場で二桁成長、欧州市場も業務用音響機器中心に堅調。
- ・ICT機器は、ネットワーク機器、コミュニケーション機器が伸長し、堅調な推移。

# その他の事業 上期の状況

上期



## 上期の状況

- ・前年同期比で増収増益。
- ・部品・装置は、FA機器、及びアミューズメント音源、車載画像等の電子デバイスが堅調に推移。
- ・その他は、ゴルフは堅調な推移。  
(前期は営業譲渡したリゾート営業収入15億含む)

\* 部品・装置売上は電子部品 自動車用内装部品 FA機器等の合計額です



## 下期の見通し

- 下期は、上期下振れした楽器事業の挽回を見込む。
  - ◆ 楽器事業は、電子楽器の新商品効果により欧・米市場中心に持ち直しを見込む。中国、新興国市場は好調を維持。
  - ◆ 音響機器事業は、AV機器、コミュニケーション機器が上期に引続き堅調に推移し、PA機器は、北米市場の売上の挽回を見込む。
  - ◆ その他の事業は、自動車用内装部品、FA機器の伸長を見込む。
  - ◆ 為替前提は、下期USドル110円、ユーロ125円共に変更なし。

## 通期の業績見込み

- 売上高、営業利益、経常利益、当期利益共に前回予想を据え置く。

# 2018/3期 通期業績予想



(億円)

	17/3	18/3予想	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	4,082	4,320	+5.8%	4,320	-
営業利益 (営業利益率)	443 (10.9%)	500 (11.6%)	+12.9%	500 (11.6%)	-
経常利益 (経常利益率)	449 (11.0%)	500 (11.6%)	+11.3%	500 (11.6%)	-
当期利益※ (当期利益率)	467 (11.4%)	390 (9.0%)	▲16.5%	390 (9.0%)	-

## 為替レート (円)

売上高 (期中平均)	US\$	108	111	110
	EUR	119	126	124
利益 (決済レート)	US\$	108	111	110
	EUR	121	126	123

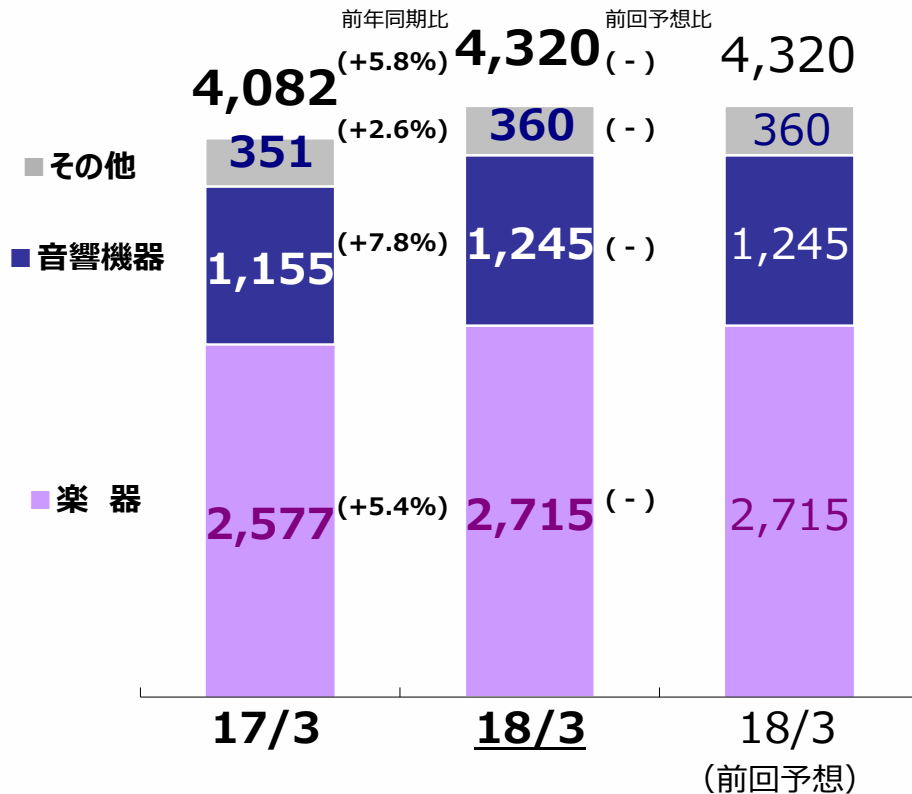
※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」

● 前回予想は2017/8/1 発表

# 2018/3期 通期事業別業績予想



## 売上高

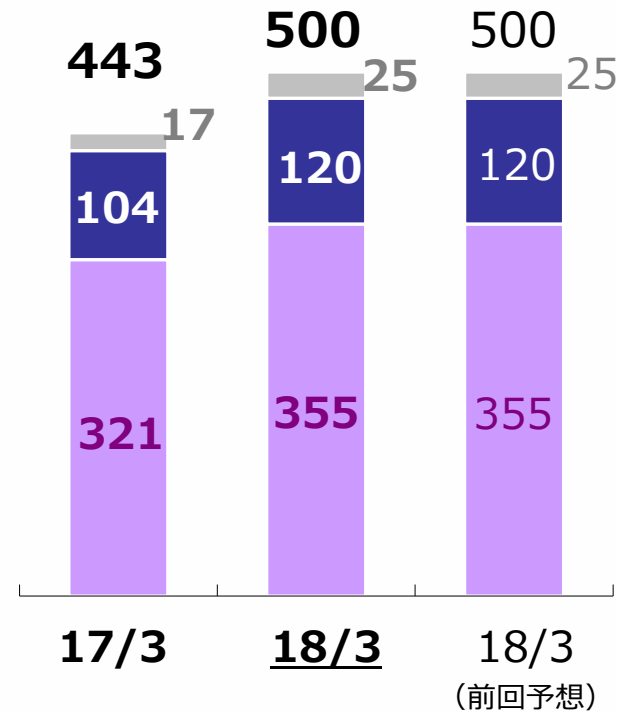


為替影響額 (億円)	
前期比較	+97
前回予想比較	+29

為替影響額 (億円)	
楽器	+63
音響機器	+33
その他	+1
楽器	+19
音響機器	+10

## 営業利益

(億円)



為替影響額 (億円)	
前期比較	+30
前回予想比較	+17

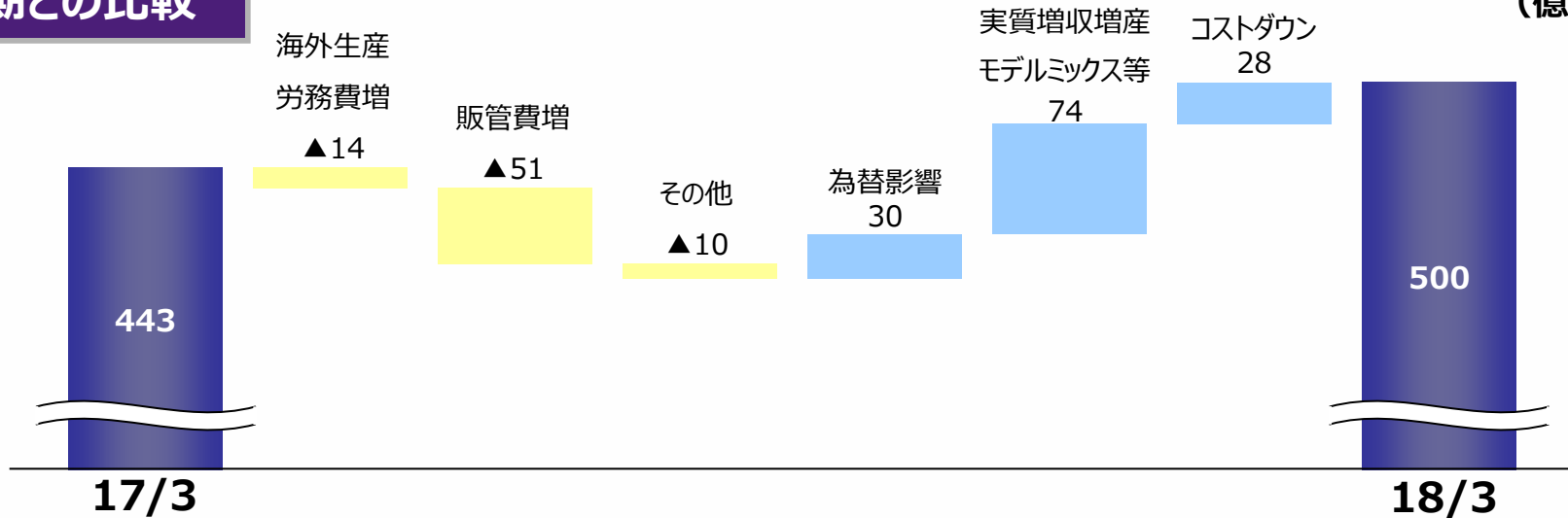
為替影響額 (億円)	
楽器	+18
音響機器	+12
楽器	+10
音響機器	+7

●前回予想は2017/8/1 発表

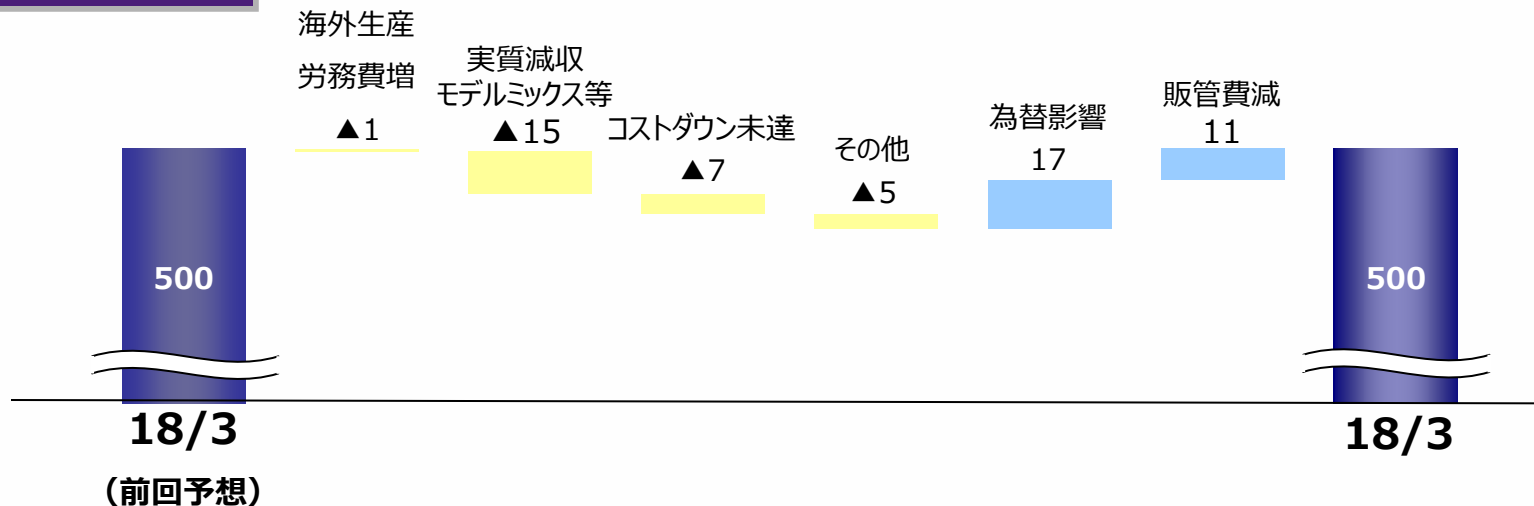
# 2018/3期 通期営業利益予想増減要因

## 前期との比較

(億円)



## 前回予想との比較



## 通期

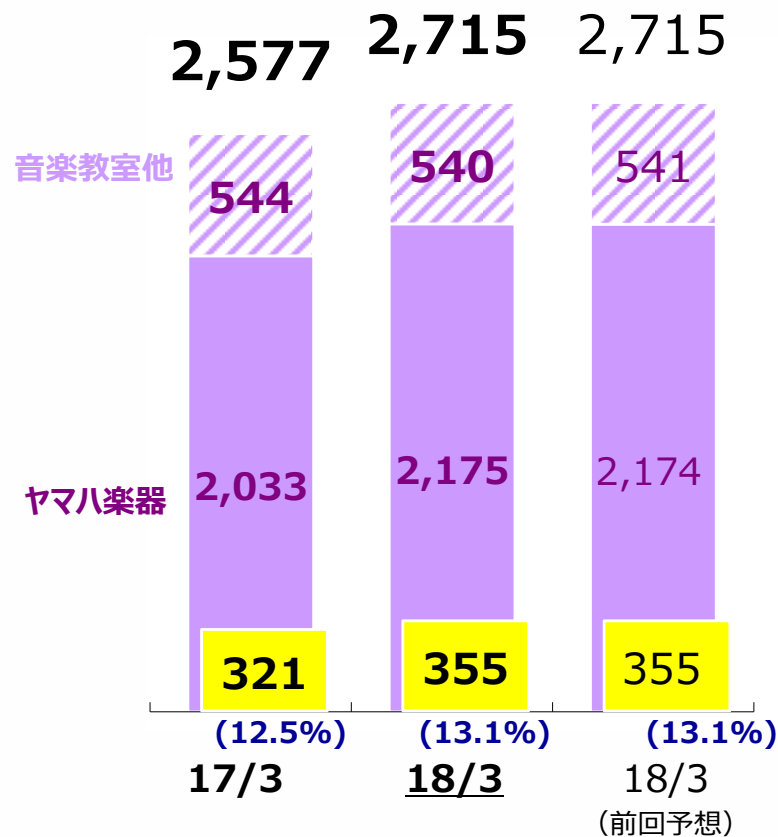
■ 売上高

■ 営業損益

(億円)

### 通期予想

- ・前回予想から変更なし。
- ・売上は、下期に期待される電子楽器新商品効果による欧米市場での挽回、中国市場での好調継続を見込む。
- ・営業利益は、増収、モデルミックス、コストダウンの効果を見込む。



\* ( )内は営業利益率

## 革新的な技術による新商品市場投入で需要拡大



ヤマハ電子ピアノ クラビノーバ  
『CLP-600シリーズ』



20年ぶりにアクション機構を大幅刷新した  
新鍵盤「GrandTouch鍵盤」を搭載



ヤマハ カジュアル管楽器  
『Venova (ヴェノーヴァ)』

新技術によりコンパクトでシンプルながら  
本格的な音色と演奏感を実現した  
カジュアル管楽器



ヤマハ電子ピアノ クラビノーバ  
『CSPシリーズ』



オーディオデータからピアノ用譜面を  
自動作成する世界初の機能を搭載



ヤマハ デジタルワークステーション  
『Genos』

欧州を中心に海外で大きな需要がある  
最新の機能を搭載した電子鍵盤楽器

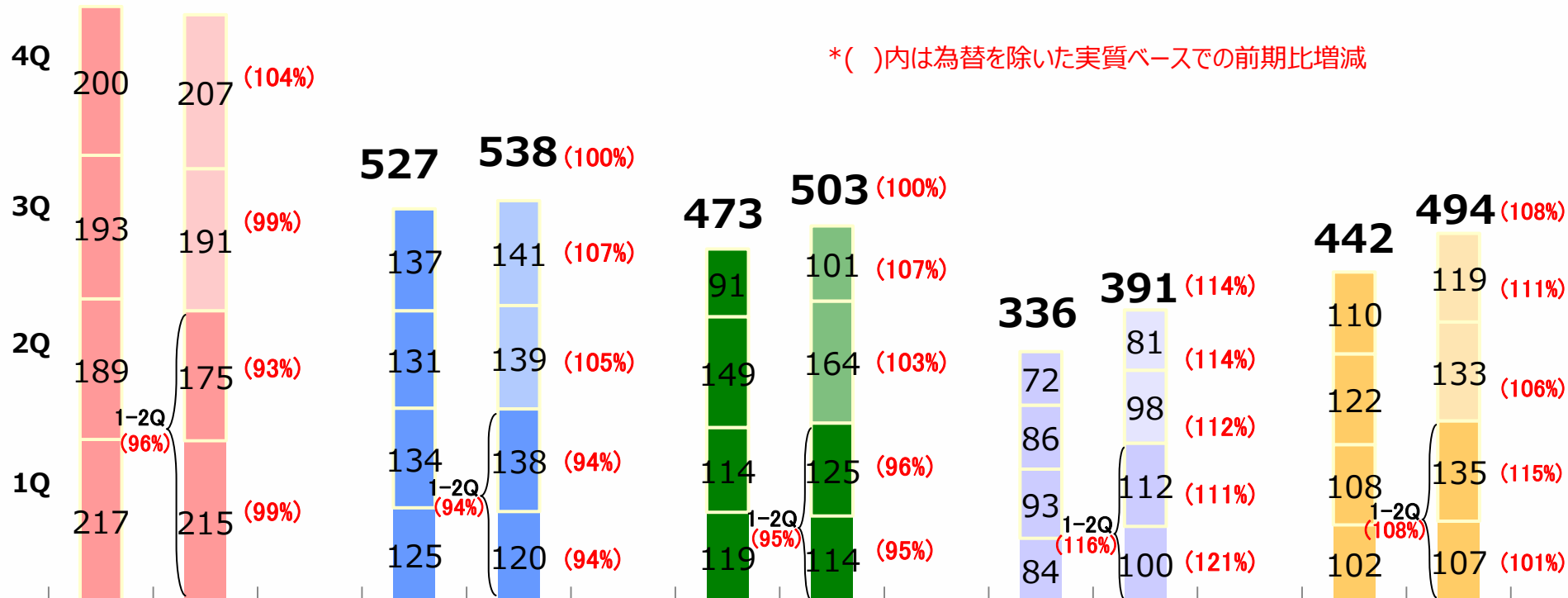
# 楽器事業 (地域別の販売予想) (ソフト、音楽教室等を含む)



全市場計 通期売上高 2,715億円 (103%)

(億円)

798 789 (99%)



17/3 18/3

17/3 18/3

17/3 18/3

17/3 18/3

17/3 18/3

日本

北米

欧州

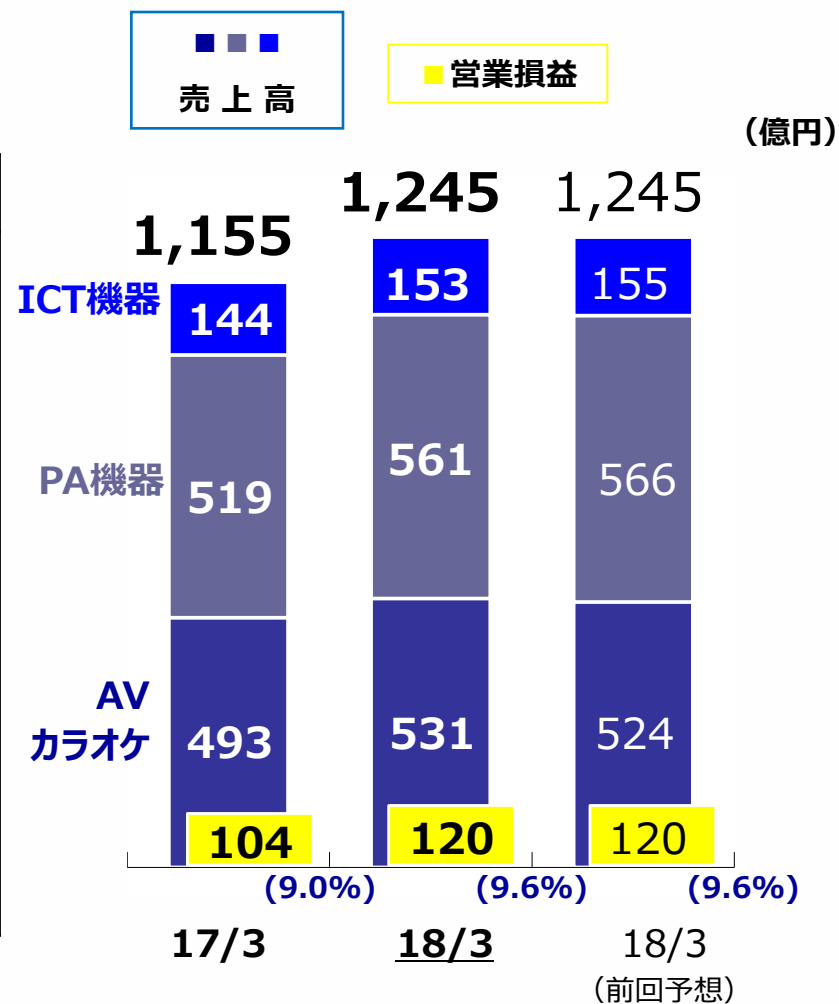
中国

その他

## 通期

### 通期予想

- ・前回予想から変更なし。
- ・AV売上は、サウンドバー、ネットワーク・オーディオの堅調継続、北米マズルートでの増加を見込む。
- ・PA売上は、北米・新興国市場での業務用音響機器、新興国での楽器店ルート向け音響機器の堅調継続を見込む。
- ・ICT機器は、コミュニケーション機器の新商品導入もあり堅調継続を見込む。



\* ( )内は営業利益率



## 最新のデジタルオーディオ技術・ネットワーク技術による需要喚起



AIを使った音声認識技術に対応  
(MusicCast商品)

※2017年内対応予定。  
アマゾン「Alexa」の展開がスタートしている地域で利用可能



新商品投入と連動したMusicCast商品の展示拡充に注力  
(ドイツ ハンブルク)



大規模ライブコンサートにおける音響システムの新世代フラッグシップ  
ヤマハ デジタル・ミキシング・システム  
『RIVAGE PM10』

最新のファームウェア、周辺機器の追加販売により機能を強化



ヤマハ ビデオサウンドコラボレーションシステム  
『CS-700』

広帯域オーディオ、高品質カメラ、DisplayLinkが  
一体となった少人数会議室向けシステム

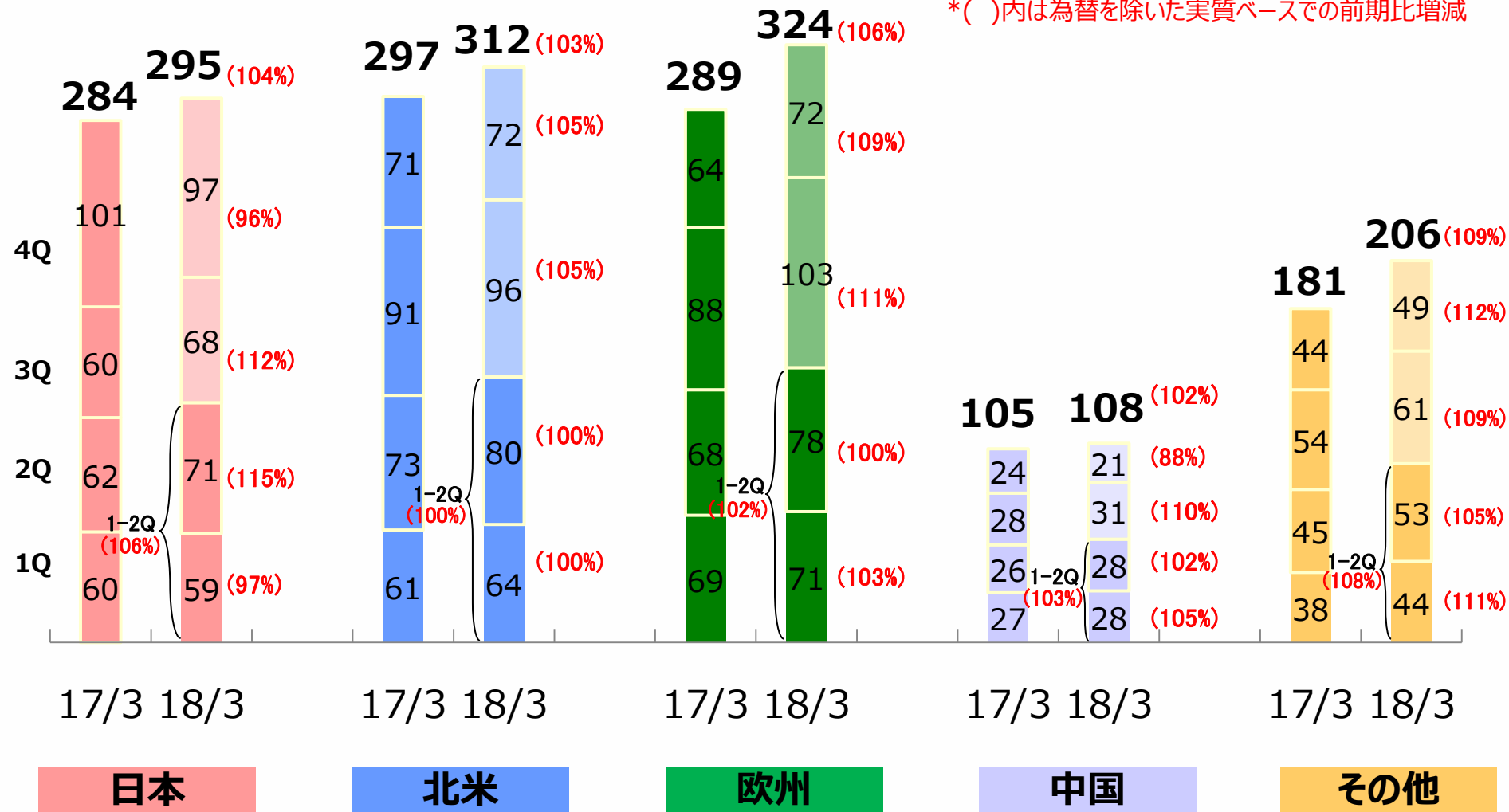
# 音響機器事業 (地域別の販売予想)



全市場計 通期売上高 1,245億円 (105%)

(億円)

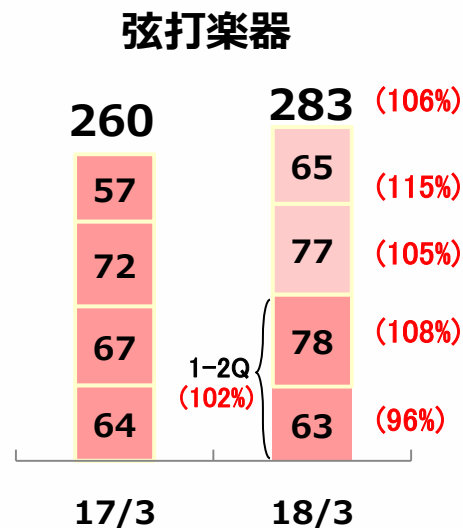
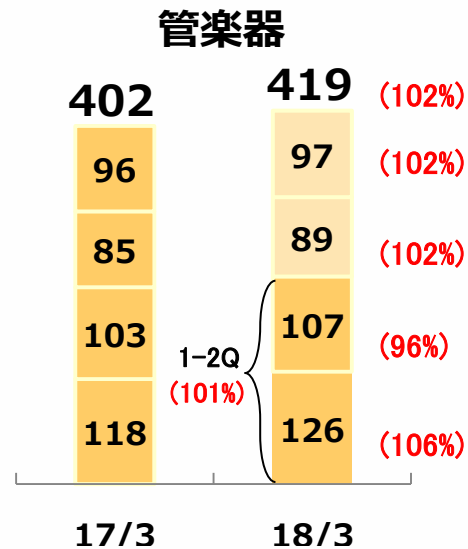
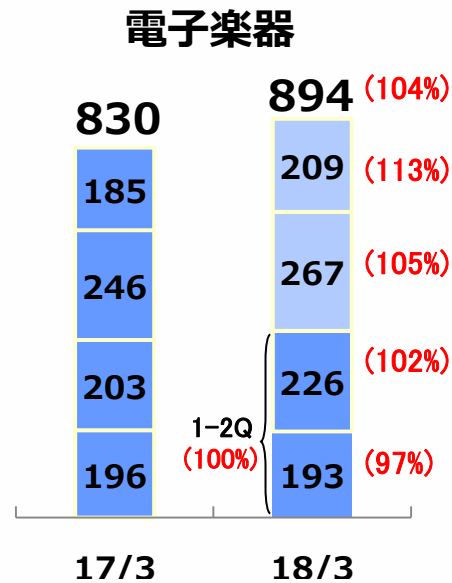
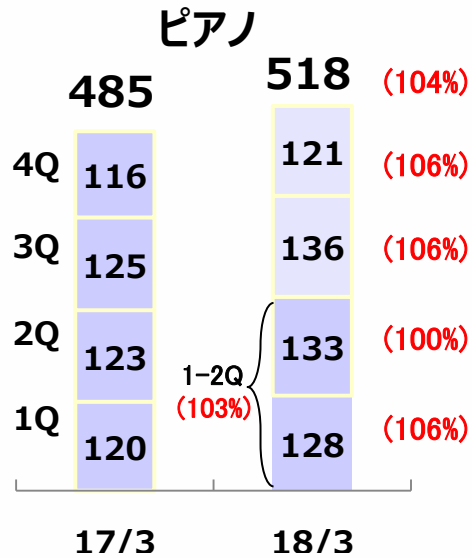
\* ( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



# 楽器・音響機器事業（主要商品別販売予想）

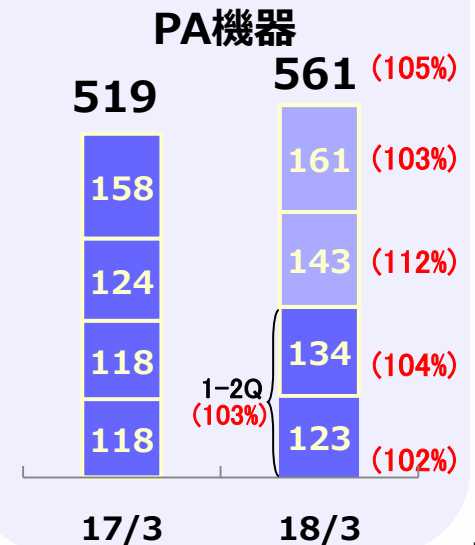
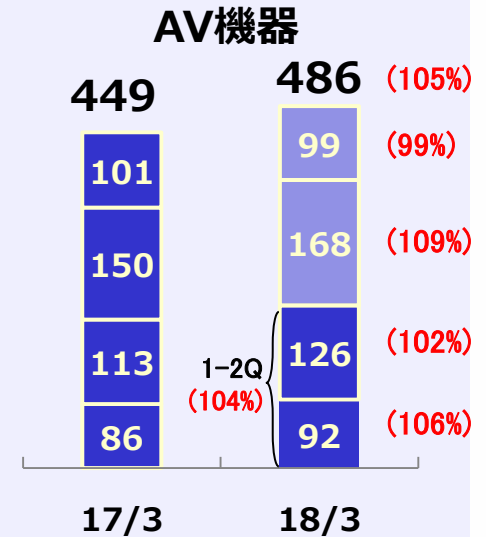


## 楽器事業



## 音響機器事業

(億円)



\* ( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

# その他の事業 (予想)

通期

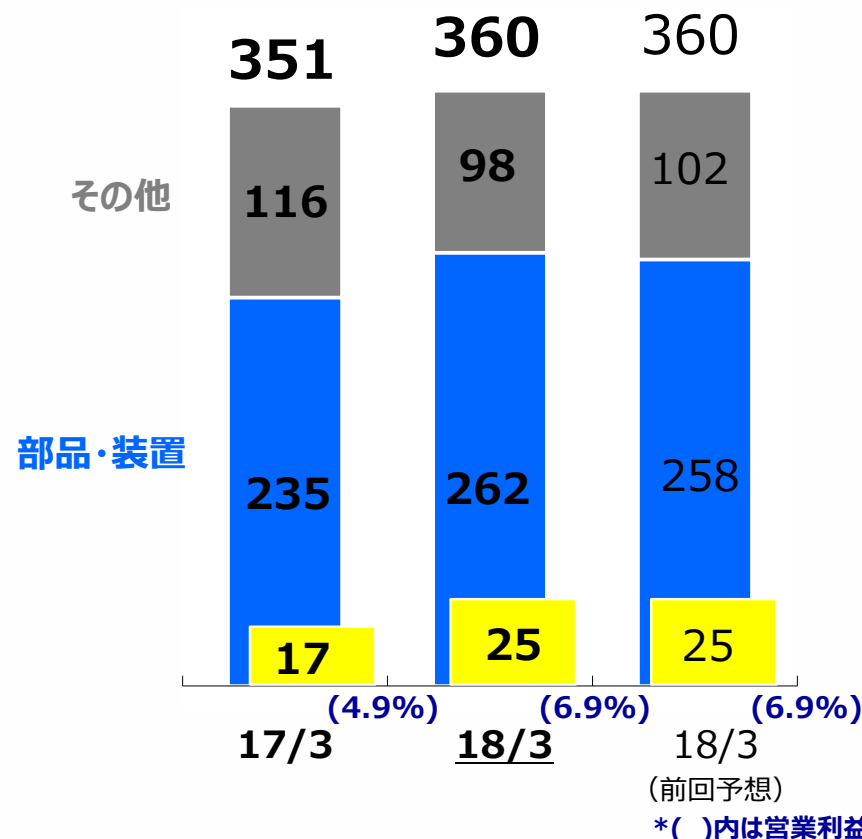
■ ■  
売上高

■ 営業損益

(億円)

## 通期予想

- ・前回予想から変更なし。
- ・部品・装置は、FA機器は新型スマートフォン効果、自動車用内装部品は新車効果により堅調を見込む。
- ・ゴルフは新商品効果により堅調を見込む。



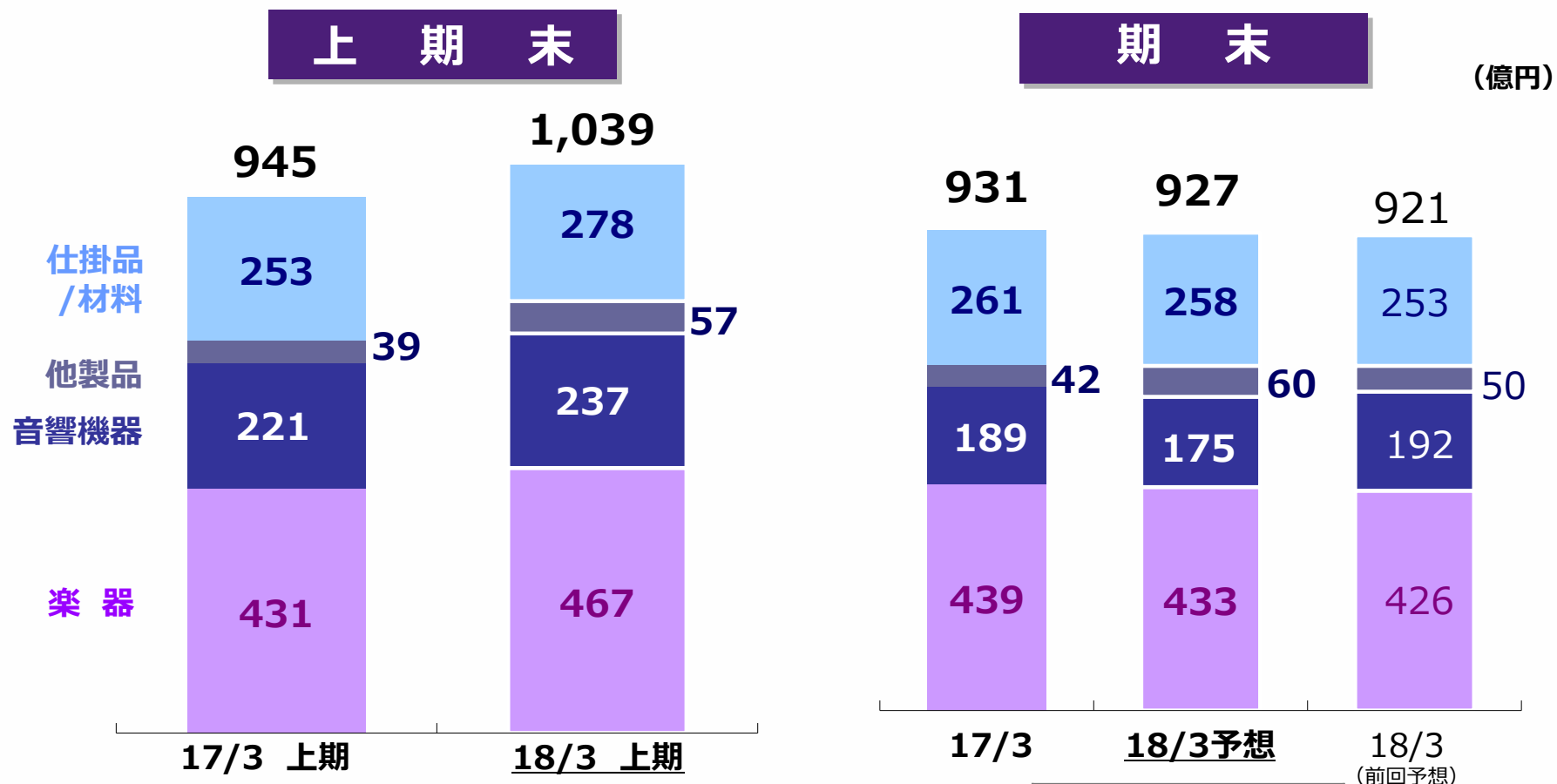
\* ( )内は営業利益率

\* 部品・装置売上は電子部品 自動車用内装部品 FA機器等の合計額です

# 棚卸資産

➤ 上期末在庫は、1,039億円 為替影響+99億円を除くと前年同期とほぼ同水準

➤ 18/3期末在庫は、927億円の見込



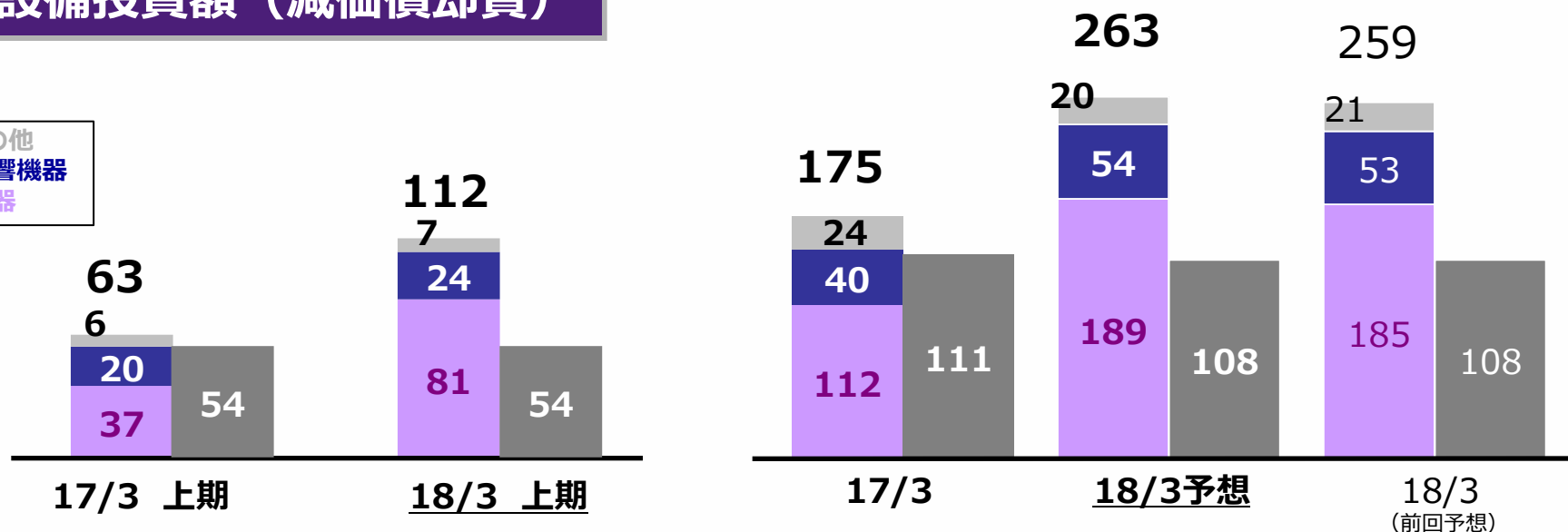
為替影響額 (億円)	
前期比較	+99

為替影響額 (億円)	
前期比較	0
前回予想比較	+2

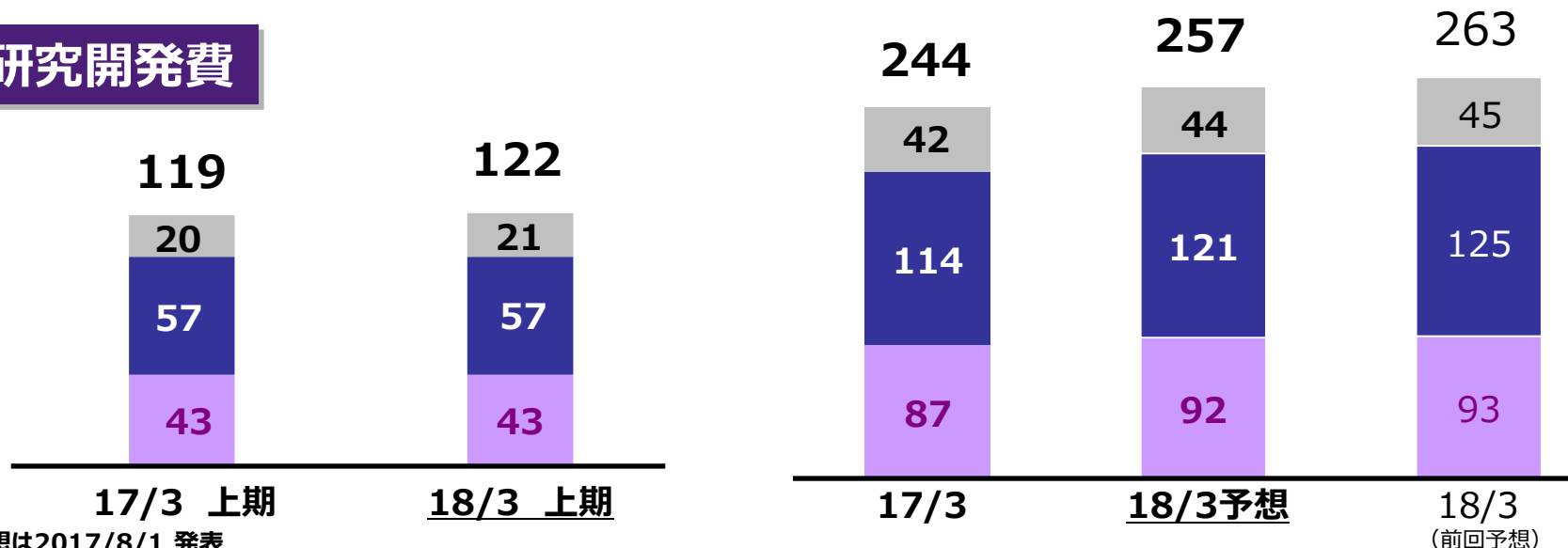
# 設備投資額・減価償却費/研究開発費

## 設備投資額（減価償却費）

(億円)



## 研究開発費



● 前回予想は2017/8/1 発表

# 貸借対照表



(億円)

	上期末			期末予想		
	16/9末	17/9末	増減	17/3末	18/3末	増減
現預金	944	1,153	+209	1,059	1,190	+131
売上債権	530	602	+72	498	510	+12
棚卸資産	945	1,039	+94	931	927	▲4
他流動資産	226	291	+65	239	274	+35
固定資産	2,144	2,874	+730	2,497	2,974	+477
<b>資産計</b>	<b>4,789</b>	<b>5,959</b>	<b>+1,170</b>	<b>5,224</b>	<b>5,875</b>	<b>+651</b>
仕入債務	170	200	+30	178	176	▲2
借入金	244	276	+32	112	107	▲5
他負債	1,215	1,381	+166	1,260	1,407	+147
純資産計	3,160	4,102	+942	3,674	4,185	+511
<b>負債純資産計</b>	<b>4,789</b>	<b>5,959</b>	<b>+1,170</b>	<b>5,224</b>	<b>5,875</b>	<b>+651</b>

# 付属資料



# 2018/3期 2Q業績概要



(億円)

	17/3	18/3	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	1,008	1,086	+7.7%	1,098	▲1.1%
営業利益 (営業利益率)	129 (12.8%)	124 (11.4%)	▲4.0%	149 (13.6%)	▲17.1%
経常利益 (経常利益率)	130 (12.9%)	135 (12.4%)	+3.7%	153 (13.9%)	▲11.7%
当期利益※ (当期利益率)	47 (4.7%)	103 (9.5%)	+118.0%	122 (11.1%)	▲15.5%

## 為替レート (円)

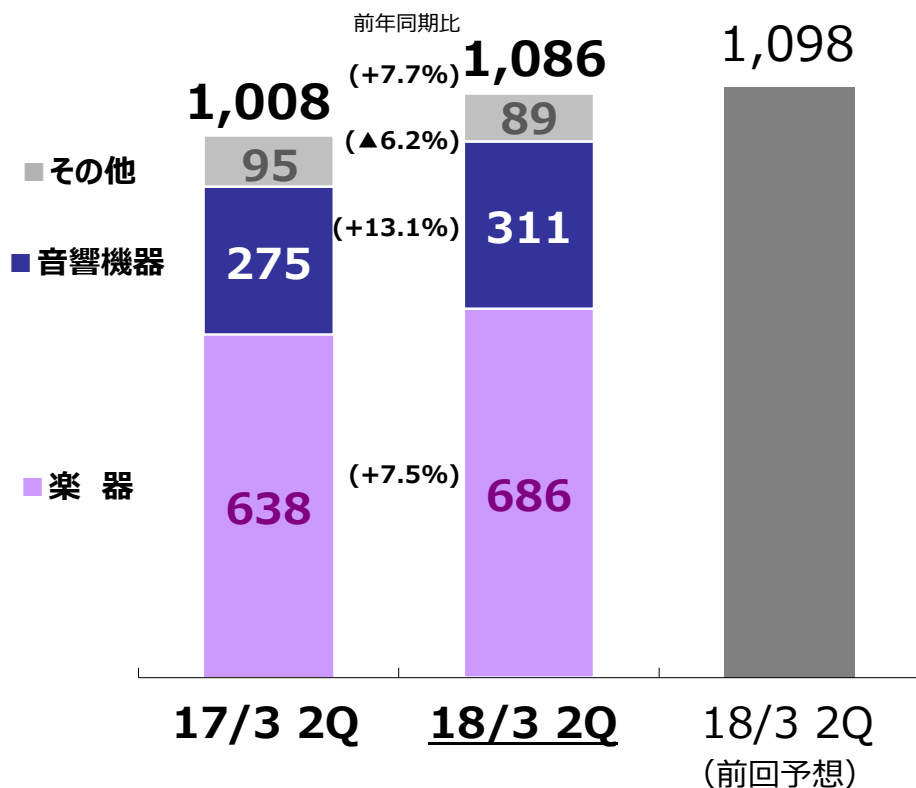
売上高 (期中平均)	US\$	102	111	110
	EUR	114	130	125
利益 (決済レート)	US\$	104	111	110
	EUR	121	123	123

※連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」

●前回予想は2017/8/1 発表

# 2018/3期 2Q事業別業績

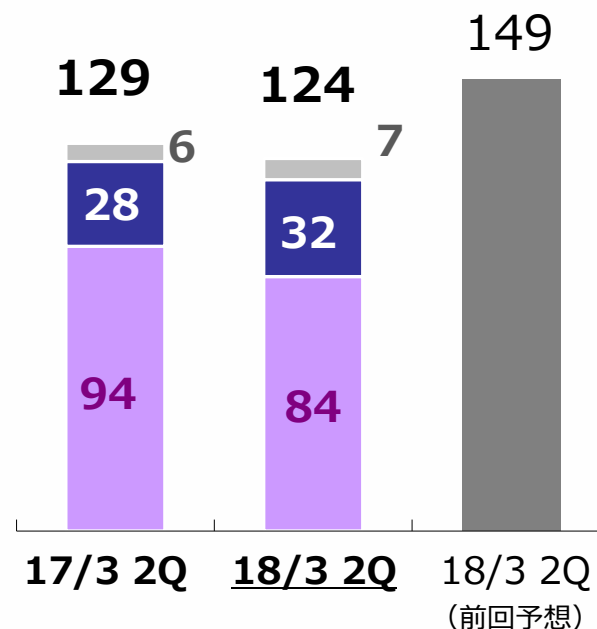
## 売上高



為替影響額 (億円)	
前期比較	+71 楽器 +47 音響機器 +23 その他 +1
前回予想比較	+22 楽器 +14 音響機器 +8

## 営業利益

(億円)



為替影響額 (億円)	
前期比較	+5 楽器 +3 音響機器 +2
前回予想比較	▲2 楽器 ▲2

# 2018/3期 上期営業外損益、特別損益



(億円)	17/3 上期	18/3 上期	18/3 上期前回予想
<b>営業外損益</b>			
金融収支	18	21	18
その他	▲20	▲13	▲18
計	▲2	8	0
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	1	▲1	▲1
その他 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;">                         リゾート構造改革 ▲49                          減損損失 ▲4                     </div>	▲53	▲3	1
計	▲52	▲4	0
<b>法人税他</b>			
法人税等	56	74	72
法人税等調整額	▲136	▲28	▲23
非支配株主に帰属する損益	1	0	1
計	▲79	46	50

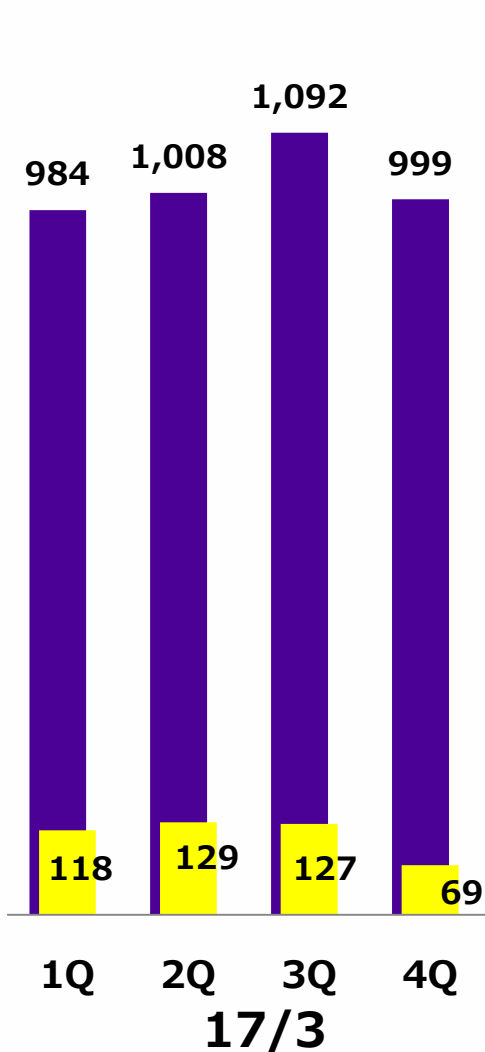
# 2018/3期 通期営業外損益、特別損益

(億円)	17/3 通期	18/3 通期予想	18/3 通期前回予想
<b>営業外損益</b>			
金融収支	35	39	33
その他	▲29	▲39	▲33
計	6	0	0
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	35	▲2	▲2
その他	▲55	2	2
計	▲20	0	0
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">                     構造改革費用 ▲30                      減損損失 ▲6                      退職給付DC移管 ▲9                      Revolabs                      のれん一時償却 ▲15                 </div> <div style="font-size: 2em;">}</div> </div>			
<b>法人税他</b>			
法人税等	87	130	121
法人税等調整額	▲127	▲20	▲11
非支配株主に帰属する損益	2	1	0
計	▲38	110	110

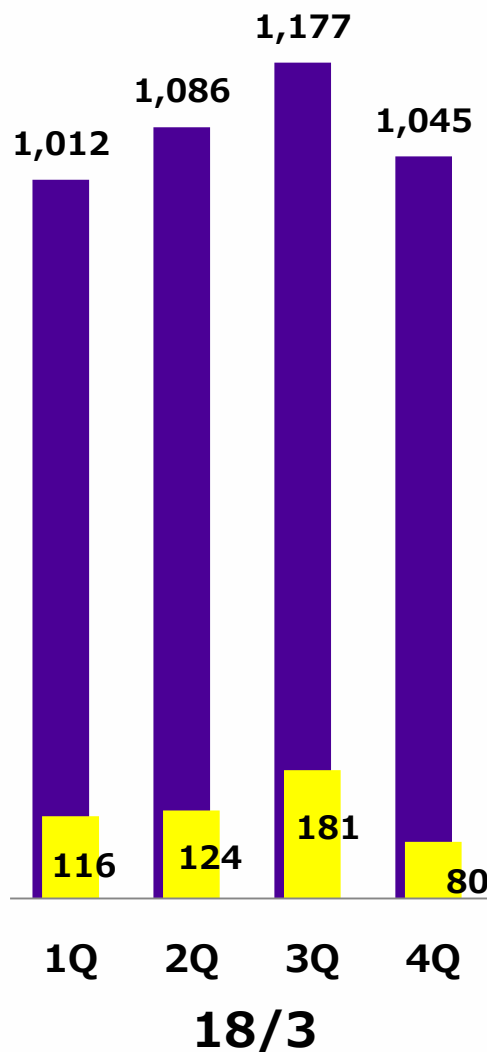
# 四半期別売上高／営業利益



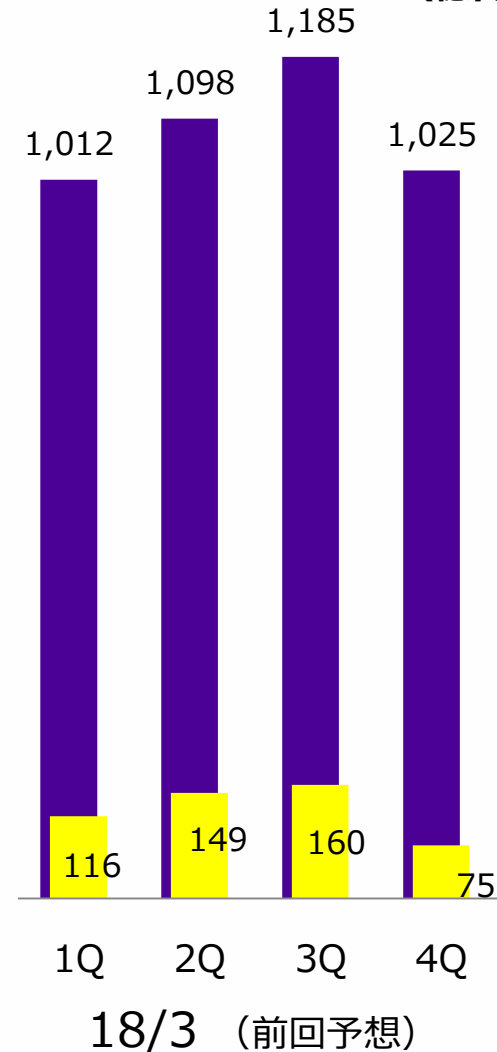
(億円)



売上高 (通期)	4,082
営業利益 (通期)	443



売上高 (通期)	4,320
営業利益 (通期)	500



売上高 (通期)	4,320
営業利益 (通期)	500

● 前回予想は2017/8/1 発表

ピアノ指導者や演奏家などハイエンドのピアノユーザー層向けプレミアムピアノ

## ヤマハ グランドピアノ『SXシリーズ』

—最高峰のコンサートグランドピアノ「CFX」の技術を継承—

2017年  
10月発売

『SXシリーズ』は、伝統的な技術と新しい革新的な技術により、サイズを超えた力強い響きと多彩な表現力を実現した、グランドピアノのハイグレードモデルです。

最大の革新は、A.R.E.技術<sup>(※)</sup>により加工された木材を使用した曲線支柱と、新設計のハンマー。数々の革新が伝統と交わることで、音色の幅が広がり、暖かみと深みをもった音が誕生しました。

ピアノ指導者や演奏家などハイエンドのピアノユーザー層や、小規模コンサートホール、サロン、音楽大学のレッスン室などでの使用を想定しています。

※A.R.E.技術：Acoustic Resonance Enhancementの略で、短期間で木材を熟成させ、長年使い込まれた楽器のような鳴りを生み出す当社独自の木材改質技術



ヤマハ グランドピアノ『S3X』  
4,600,000円(税抜)



ヤマハ グランドピアノ『S6X』  
5,400,000円(税抜)

## 電子ピアノの主力商品「CLPシリーズ」の3年ぶりのモデルチェンジ ヤマハ電子ピアノ クラビノーバ『CLP-600シリーズ』

2017年  
5月発売

— 20年ぶりにアクション機構を大幅刷新した新鍵盤「GrandTouch鍵盤」を搭載 —

「クラビノーバ」CLPシリーズは、ヤマハのピアノづくりの感性と技術を活かして、グランドピアノに迫る演奏感と弾き心地を実現した電子ピアノです。

“演奏者のイメージした通りのタッチと音で、さまざまな表現ができること”を目指して、ピアノの演奏感に大きな影響を与える鍵盤のアクション機構を20年ぶりに刷新しました。

新たに開発した「GrandTouch鍵盤」は、強音から弱音まで幅広く表現できるだけでなく、鍵盤の奥の部分のタッチ感まで向上させ、アコースティックピアノにより近づいた弾き心地を実現しました。



クラビノーバ『CLP-685PE』  
420,000円(税抜)



## ロングセラーの電子ピアノ「クラビノーバ」に新シリーズが登場 ヤマハ電子ピアノ クラビノーバ『CSPシリーズ』

2017年  
10月発売

—オーディオデータからピアノ用譜面を自動作成する世界初※の機能を搭載—

クラビノーバ『CSPシリーズ』は、「自分の好きな曲をピアノで弾きたい」というニーズに応える、新しいタイプの電子ピアノです。

専用アプリ「スマートピアニスト」をダウンロードしたスマートフォンやタブレットのデバイス内に保存したどんな楽曲でもその曲のコード進行を読み取って、即座にピアノ用の譜面を自動作成できます。

鍵盤上部のランプにより弾く鍵盤の位置とタイミングを示すガイド機能「ストリームライツ」で、楽譜を読むのが苦手な方でも、鍵盤上部から流れてくる光に合わせてピアノ演奏ができます。

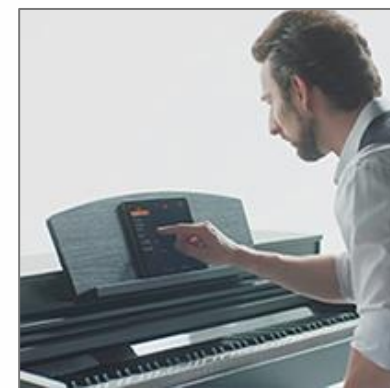
「クラビノーバ」のシリーズとして、高品質な鍵盤やスピーカーシステムを備え、豊富な音色を内蔵しているので、好きな曲を、本格的な弾き心地や豊かな音色で楽しめます。



クラビノーバ『CSP-170PE』  
328,000円(税抜)  
※iPadは付属しません。



【専用アプリ「スマートピアニスト」画面表示イメージ】





気軽に始められて、なおかつサクソフンのような豊かな演奏表現を楽しめる、  
まったく新しい管楽器

## ヤマハ カジュアル管楽器『Venova (ヴェノーヴァ)』

—丈夫で軽いABS樹脂製のコンパクトな管楽器—

2017年  
8月発売



カジュアル管楽器『Venova』は、管楽器の本格的な演奏感や表現力をより気軽に身近に楽しんでいただけるように開発された、まったく新しいタイプのアコースティック管楽器です。

新開発の円筒管を分岐させた「分岐管構造」や管体を蛇行させたことで、コンパクトでシンプルながら広がりのある本格的な音色を奏でることができるため、管楽器初心者はもちろん経験者にも満足いただける楽器となっています。

ABS樹脂製のため軽量で耐久性に優れ、水洗いも可能で、取り扱いやメンテナンスも容易です。



**この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。**

**従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。**